

方が話せるため、外国籍、特にブラジル人の園児が多いみよし保育園では、欠かせない存在となっているようでした。

みよし保育園では、多種多様なルーツを持つ園児たちを抱えながらも、お互いを認め合う環境づくりに、園全体で取り組んでいるところが印象的でした。

グローバルサマーツアー2014 ③坂田保育園

宇都宮大学教育学部4年

長尾 真弥

私たちのグループは、私立坂田保育園を訪問しました。

坂田保育園では、はじめに先生方から園の成り立ちや外国人園児の増加などについて、また保育の現状などについてのお話を聞きました。その後は、午睡から覚めた園児たちと一緒に、間近に迫っている運動会の練習をおこないました。

坂田保育園で私が感じたことは、日本人園児だ

けが在籍する一般的な保育園と何も変わらない、ということでした。先生方のお話や子どもたちとのかわり、園の環境など、特別「国際的」ということもなく、子どもに必要なことを、国籍に関係なく当たり前に行っている姿がそこにはありました。

「違い」を「日常化」する。当たり前のようで大変なこのことを、坂田保育園の先生方、子どもたちは実現しているのだと思いました。

グローバルサマーツアー2014 ④大泉西保育園

作新学院大学経営学部1年

行本 大誠

私のグループは、大泉町立大泉西保育園を訪問しました。

到着後、前半は、子ども達と交流するグループと先生方のお話を聞くグループに分かれ、後半は、それぞれが交代しました。先生方からは、日頃心がけていることや、保育で大変だと感じることなど話していただきました。国や文化の違いで食べさせられないものがある場合など、事前に保護者に聞いて対応することが大変だそうです。

交流する時間には、私は子ども達と触れ合ううちあることに気づきました。髪や肌の色の違う子ども同士で、一緒に楽しそうに遊んでいるのです。その光景を見て私は驚き、そして確信しました。ここで育った子たちは将来決して人を差別するようなことはなく、何事にも積極的に取り組み、協力し合える子になるだろう、と。

この夏、グローバルサマーツアー参加して、貴重な体験ができたと思っています。

進め
日本語教室

第8回



ー日本語教室担当半年の
学びからのちょっとした工夫ー

小山市立小山城東小学校

伊藤 佳之

4月、半年間の白鷗大学でのスペイン語内地留学を終え、希望した日本語教室の担当になり

ました。小山市立小山城東小学校には、27名の支援を必要とする外国人児童が在籍していま